



長期研修講座とは

学校における基本的な課題や当面する諸問題を踏まえて、総合教育センターが設定した研修を行い、教員としての資質の向上とともに、学校教育の充実を図ることを目的とし、「神奈川県立総合教育センター長期研修講座」を開講しています。令和6年度までの修了者数は、1,076名となっています。

長期研究員は一年間、総合教育センターで喫緊の教育課題や所属校等の課題を解決していくための手立てを見いだして学校教育に還元する教育研究や、総合教育センターの業務を理解し、教育行政に関する理解を図る実務研修などに取り組みます。

Q. 長期研究員って？



A. 長期研修講座の受講者を指します。

令和7年度 長期研修講座研究発表会

令和8年3月3日(火)開催!



長期研究員が一年間取り組んだ教育研究の成果を発表します。

- ◆小学校3名（社会、生活、体育）
- ◆中学校3名（理科、保健体育、養護）
- ◆高等学校7名（国語、地理歴史、数学、理科、保健体育、
外国語、総合的な探究の時間）
- ◆特別支援学校1名（支援教育）



長期研修講座研究発表会についてはこちら▶



センター所蔵の教育資料を活用した授業実践 ～「ホンモノ」がもつ説得力～



11/5(水) 6年生 社会科 「戦争と人々のくらし」

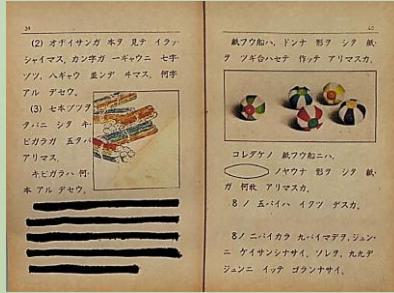
センター所蔵資料を活用した、大和市小学校教育研究会社会科部会の授業実践を紹介します。(大和市立福田小学校高橋総括教諭による授業)

本時は、単元の一時間目として、当時使われていた教科書に着目し、戦争と人々の暮らしについて学習課題を立てるという授業でした。最初に前単元で学習した内容を振り返り、戦争について意識を向けさせた後に、ICT機器を活用し、戦中と戦後に使用されていた教科書をそれぞれ提示しました。児童たちは率直な感想や、気が付いたことを話し合っていました。具体的な教材を活用することにより、戦争という過去の出来事と自分たちの生活のつながりを、現実味をもって感じているようでした。



国民学校国定教科書『ヨミカタ』1941年

このころの国語は「国民科国語」に位置付けられ、「皇国民の錬成」ということが究極の目的とされていました。そのため、軍国主義的色彩が濃いものとなっています。



国民学校国定教科書『カズノホン』1941年

1945年、日本が太平洋戦争で敗退すると、当時の国民学校では、軍国主義的な内容に墨を塗る、紙を貼るなどして読みにくくした教科書が使われました。

【子どもたちの声（一部）】

塗りつぶしたのは戦争と関係ありそう

何で教科書（の一文）をかくすの

（かくれている部分を読んで）大砲の作り方に興味をもっちゃうからかな



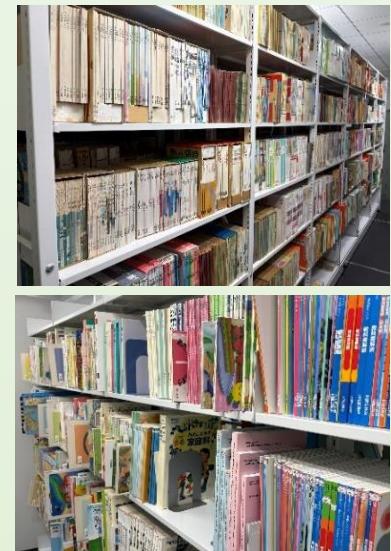
高橋先生が実物の教科書を出すと、子どもたちからは「うわー。」「すごい」という声があがりました。歴史が単なる知識ではなく、自分に関わる現実のものとして感じられた瞬間でした。

神奈川県の教科書センターとして

神奈川県立総合教育センター5階の学校支援室は、「神奈川県教科書センター」としての役割も持っています。教科書センターとは、1956（昭和31）年、都道府県などが設置した、教科書の調査研究の便宜を図るとともに、保護者や地域住民等も利用することを目的とした施設です。毎年6～7月頃には、「教科書展示会」を開催し、採択候補の教科書を公開しています。教育関係者や地域住民等、多くの方々に教科書に触れていただいているです。

当初、全国に600か所の教科書センターを作ることが計画されましたが、現在では、神奈川県内の19か所を含め、全国で962か所の教科書センターがあります。

また、当センター教育図書室の収蔵庫には、1947（昭和22）年の第1回の検定以来発行された教科書のおよそ7割、3万冊を所蔵しています。



センター所蔵の資料をご覧になりたい方は、5階教育図書室にお声掛けください。また、資料の説明や授業での活用を希望される場合は事前にご相談ください。



【参考】
文部科学省
「都道府県が設置する教科書センター一覧」

お問い合わせ
学校教育支援課学校支援班
(0466) 81-1659[直通]